

令和6年度
まちとわたしとあなたプロジェクト報告書

令和7年5月

1 背景

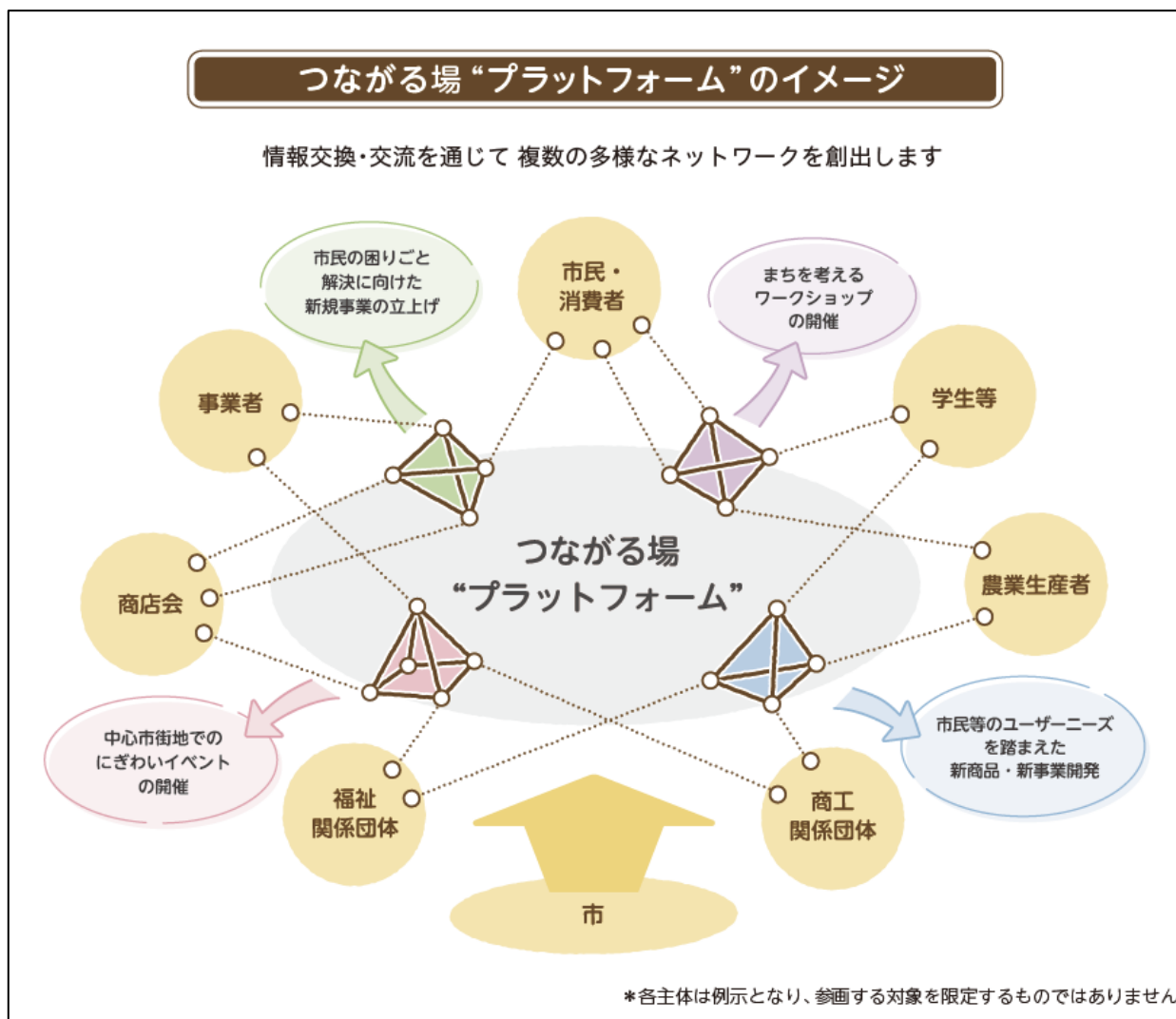
市では、令和4年度、5年度の2カ年をかけて、第三期武蔵野市産業振興計画の策定を行いました。策定にあたっては、前計画以上に市民の方、事業者の方の意見を取り入れた計画とするために、ワークショップを開催し、今後の市内産業の振興に必要な事柄などについて、意見交換を行いました。

当時、実施したワークショップでは、観光及び商店会分野についての意見交換が主たるものでしたが、参加者からの感想では、産業振興施策分野においても様々な主体が交流・意見交換できる場が継続的にあると良いとの感想や意見をいただきました。

一方で、武蔵野市産業振興審議会及び専門部会における計画検討の過程においては、生産年齢人口の減少に伴う担い手(後継者)不足に対応するために多様な人材の関わりが求められること、あわせて、市内産業の活性化、さらなる魅力創出を行うためには、市民の方、事業者の方のニーズを把握し、参加者同士や、参加者のニーズをつなげていくことが必要との結論に至りました。

ワークショップにおける参加者の思い、審議会等での検討結果が、同様の方向性を導き出す結果となり、第三期武蔵野市産業振興計画の重要なキーワードとして「つながりの場づくり」が掲げられました。

そして、令和6年度から計画内容の実現を目指し、「つながりの場づくり」の具体化を進めることとなりました。



出典:第三期武蔵野市産業振興計画 25 ページから抜粋

2 事業構築のねらい

「つながりの場づくり」を具体化するうえで、主に3つのねらいがありました。

1つ目は、日常生活の中では、出会う(関わる)ことがない方同士が出会う機会を創出することです。

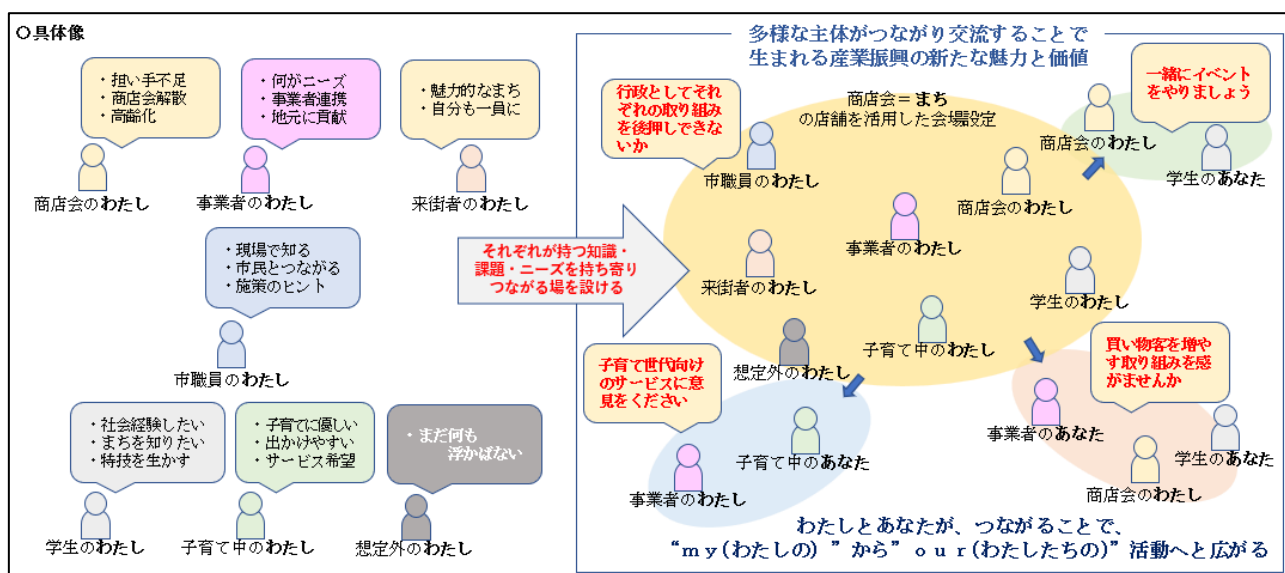
2つ目は、そうして集まった参加者同士が交流し、意見交換をする中で、関係性を構築していくことです。

最後に3つ目は、交流し、関係性を深め、お互いのニーズ等を交換することで、それぞれの主体的な活動につなげていく、または主体的活動の基礎を築いていくことです。

令和6年度の事業構築にあたっては、初年度ということもあり、1つ目と2つ目の機会創出と関係構築を主体としつつ、次年度への展開手法を検討することとしていました。

そのうえで、実際の場づくりでは、広く参加者間のコミュニケーションが図れるワークショップ形式を採用し、加えて、参加者を受け入れる間口をより広くするために、異なる地域で事業を実施することとしました。

また、参加者から出た意見等を、次年度の「つながりの場づくり」や市としての支援策を検討するうえでの資料(材料)とするため、本報告書にて、意見内容をまとめることとしました。



出典:事業構築時の内部資料から抜粋



出典:令和5年度に開催したワークショップの様子(会場:スイング)

3 事業運営の手法

ワークショップを開催するにあたっては、市内の商店会に加入する店舗を活用することとしましたが、それは、コミュニケーションを図る場を柔らかな雰囲気設定したかったことに加えて、参加をきっかけに、お店を訪れる方たちに店舗が属する地元商店会のことを知って欲しいという願いからでした。

また、ワークショップの運営方法・進行役を毎回変えて実施しましたが、それは、次年度以降にどのようなスタイル(方向性)で実施することが望ましいのか、参加者の反応(意見)を参考に改善したいという意図からでした。

4 会場選定と調整手法

会場選定にあたっては、ワークショップ(約 30 名規模)を受け入れることができる店舗であり、商店会に加入している店舗を、当該地区の商店会役員に相談し、候補選定しました。その後、現地店舗を見学するなど、店舗の実態を把握したうえで、状況によっては役員の方に同伴いただき、店舗との交渉にあたりました。

市が店舗を借用して事業を行うことで、店舗の事業運営に支障をきたさないよう配慮に努め、実施時間帯の候補をランチ営業とディナー営業の間で行うこととしました。



吉祥寺地区会場「八十八夜」



武蔵境地区会場「レストラン ル・ロジエ」



中央地区会場「AZ DINING」

5 各地区の実施概要

(1) 吉祥寺地区

① 日時

令和6年8月 21 日(水)午後3時 30 分～5 時

② 個別テーマ

参加者同士の意見交換を通じて、明日から取り組むアクションを宣言しよう

③ 進行役(敬称略)

吉崎 勝哉(市職員)

④ ワークショップの進行スケジュール

●御殿山幸栄会会長から地元商店会の取組内容などの紹介

●アイスブレイク

・吉祥寺の魅力ってなんだろう？

・皆さんの思う吉祥寺ってどんなまち？

●グループワーク1

・20年後の吉祥寺はどうなってほしい？

・吉祥寺がこれからもっと人気のある まちになるためには？

・吉祥寺にあってほしい新たな価値は？

●グループワーク2

・吉祥寺がもっと魅力あふれる、人気のあるまちになるために私やあなたが今取り組むべきこと・
取り組めることはなんでしょう？

●わたしの宣言共有

宣言書フォーマット

⑤ 参加人数

23 名(託児なし、見学者 12 名)

(2)中央地区

①日時

令和6年 10 月6日(日)午後3時 30 分～5 時

②個別テーマ

「まちがもっと良くなる！」企画を作成しよう(自分の特技も活かして、グループでの役割も考えて)

③進行役(敬称略)

浅川 絢子(一般社団法人ビジネスシード)

④ワークショップの進行スケジュール






●中央通り西祥会から地元商店会の取組内容などの紹介

●アイスブレイク

・趣味・特技・こんなことならできるかも！？を含めて自己紹介しよう

●グループワーク1

・テーマを決めて企画を立てよう！(テーマカードも参考に)

テーマカード		
海外からの旅行者や 近隣地域の人に来て 楽しめるエリアに！ 	音楽、芸術、アニメで 地域活性化！ 	農地・農業を活用して 地域を盛り上げる！ 
声をかけあい買い物できる 商店会・商店街 繋がりプロジェクト 	学生や若者と 社会人が知り合い・ 話せるまちに 	お店と連携 子育て応援プロジェクト 
 サッカーやラグビーで まちをもっと盛り上げよう	いろいろな職業の人が 出会って話せるまちづくり 	副業を始めた人をお店が 応援しちゃうプロジェクト 

参加者に参考として提示したテーマカード

●グループワーク2

・企画の詳細を考えよう！

●企画を発表・共有

⑤参加人数

28 名(託児3名、見学者8名)

(3)武蔵境地区

①日時

令和6年 12 月 12 日(木)午後3時 30 分～5 時

②個別テーマ

まちが理想に近づくためのアイデアを共有しよう


③進行役(敬称略)

米元 洋次(合同会社 Active Learners)

まちとわたしとあなたプロジェクト

本日のゴール

- ① 本日出会った参加者の方々について、身近な人に説明できる！
- ② 対話を通して、わがまちの「今」と「これから」についてワークショップ前よりも捉え方・考え方が広がっている



—あなたのまちは—わたしのまち—まちのあなたは—まちのわたし—

武蔵境地区のワークショップ方針

④ワークショップの進行スケジュール

- 境南協栄会から地元商店会の取組内容などの紹介
- アイスブレイク
 - ・お名前、お住まいのエリア、ご所属を交えた自己紹介
 - ・好きな市内・武蔵境近辺のスポットについて紹介
- グループワーク1(第1ラウンド)
 - ・(直感で)今のわがまち、何点？
 - ・わがまちの「今」と「これから(理想)」／良いところ・課題・理想の状態
- グループワーク2(第2ラウンド)
 - ・(簡潔に)第1ラウンドの内容共有
 - ・理想に近づくためのアイデアブレスト／あったら良さそう・こんなことができそう・こんなコラボ・つながり、面白そう
- グループでの対話を受けての感想・気づき(全体共有)
- 全体を通しての感想・気づき(グループ内共有)

⑤参加人数

21 名(託児1名、見学者5名)

6 ワークショップでの参加者意見(意見等については基本的に原文で掲載しています)

(1) 吉祥寺地区

吉祥寺地区では、明日から取り組むアクションを宣言しましたが、その内容は以下のとおりです。

A グループ

- ①街にある個性を育むために 知る 共感する 共有する やってみる 学ぶ！！
- ②自分の住んでいる街のことに興味を持ち、知ろうとすること、顔の見えるお店や場所へ行く。コミュニケーションをこれからも大切にする。
- ③よそにはない資源に気づき、「～らしさ」を共有し続けられるまちづくりに賛同します。個性をコミュニケーションを大事にしながら。
- ④吉祥寺のヒミツや個性、かくれたワクワクを伝える。

B グループ

- ①行きつけの店をつくる
- ②健康寿命を延ばす(あいさつ、運動、場作り、多世代)
- ③多世代のしゃべり場
- ④市民の人と意見交換できる場に出向く！武蔵野市役所職員になる！！
- ⑤顔見知りママさんと頼り合える関係をつくる

C グループ

- ①吉祥寺に関わる事業者、住む人、訪れる人を一人でもつなげる！！まず私が知り合いを増やす。
- ②商店会活動を通して得ることができた意見・案を伝え実行していく！
- ③このようなまちづくりのイベントに参加し、商店会や地域の課題について一緒に考える。
- ④インターン生として、学生の視点から最終日の成果発表の日に市役所の方々とつながる+α の案を提示する！
- ⑤商店会さんと接点を持ち自分のスキルで色々なお店を盛り上げるお手伝いをしたい。

D グループ

- ①武蔵野市のキャッシュレス化
- ②子どもが街の未来を作る。よりファミリーフレンドな街になるよう貢献する
- ③シルバーがいつまでも働ける街！
- ④居る人来る人が楽しめる町
- ⑤子どもクッキング！！調理力を育む

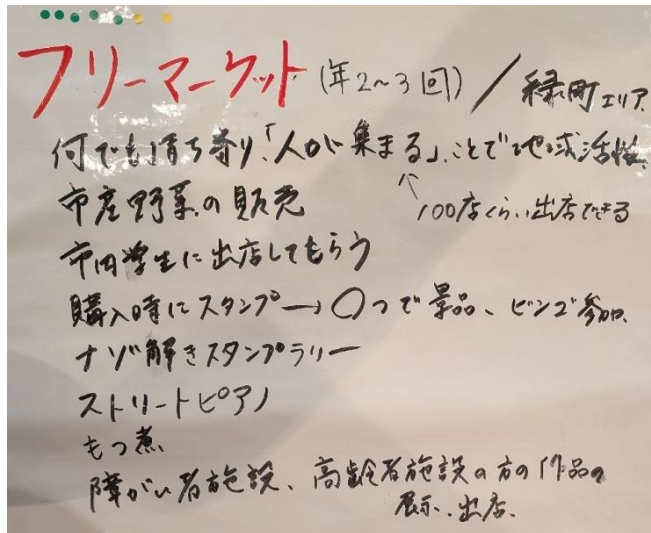
E グループ

- ①世代を超えた交流会！！ 地下の動く歩道！
- ②バスに乗って色々なところに行きたいと思います
- ③持続可能な未来に向けて、世代・テーマをこえてつなぐ！
- ④出合いを大切に！！つながろう

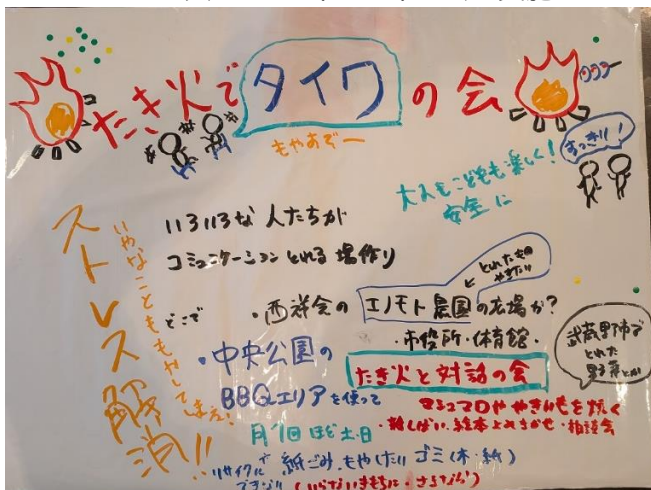
(2)中央地区

中央地区では、「まちがもっと良くなる！」企画を作成しましたが、その内容は以下のとおりです。

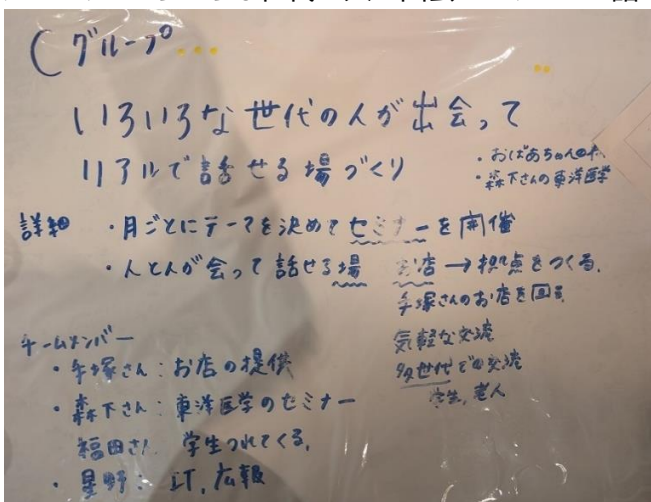
A グループ:フリーマーケットの実施



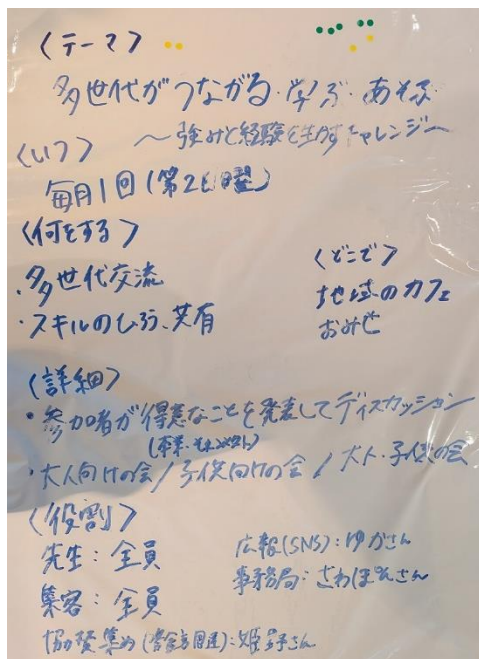
B グループ:たき火でタイワ(タイワ)の会の実施



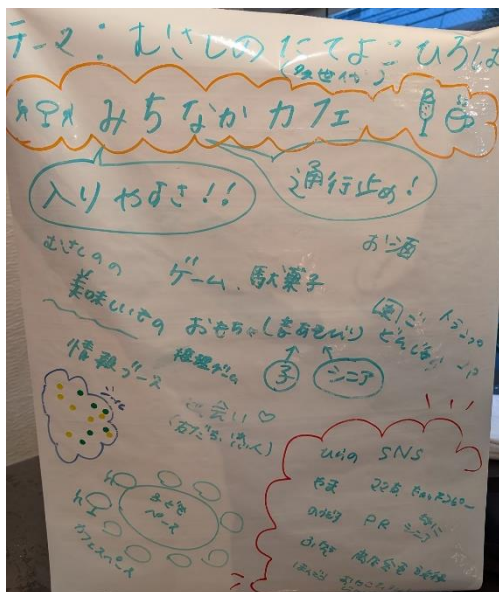
Cグループ:いろいろな世代の人が出会ってリアルで話せる場づくり



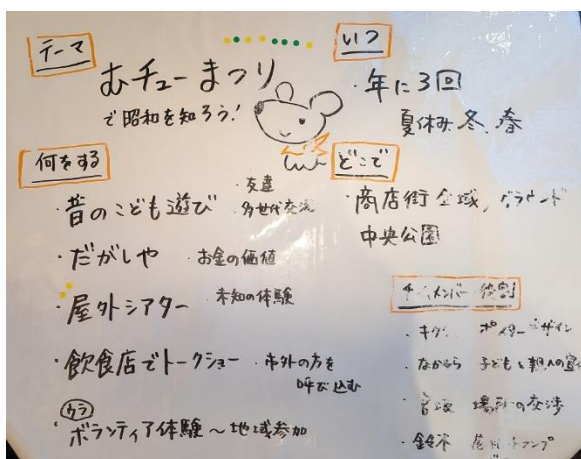
D グループ:多世代がつながる、学ぶ、あそぶ～強みと経験を生かすチャレンジ～



E グループ:むさしのたて よこ ひろば「みちなかカフェ」の実施



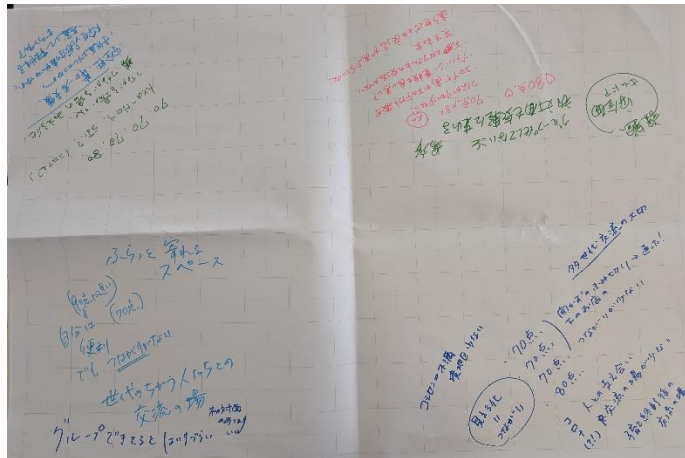
F グループ:むチューまつりで昭和を知ろうの実施



(3)武蔵境地区

武蔵境地区では、まちの採点とまちが理想に近づくためのアイデアについて意見交換し、その内容は以下のとおりです。

A グループ

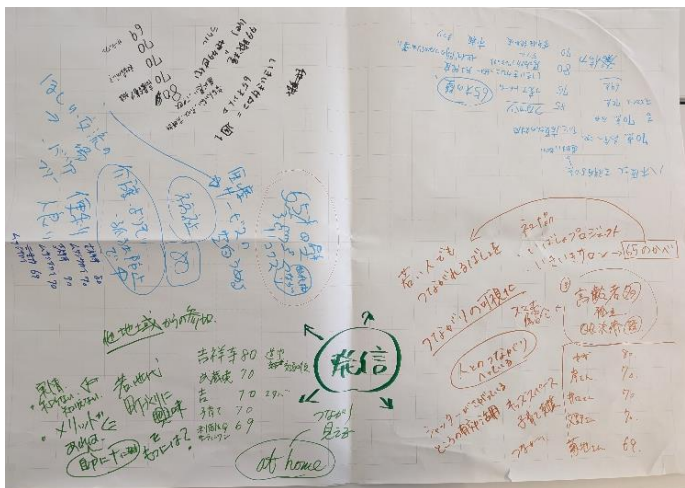


- ・点数: 70 点、70 点、70 点、80 点
- ・アットホームなスペースがあると良い。
- ・境地区は駅の近くにコミセンが欲しい。
- ・人とのつながりが見える化できると良い。
- ・プレイスでクリスマスマーケットを行ってほしい、ダンスができるステージがあると良いと思う。
- ・違う世代との交流の場があって欲しい、多世代交流の場の必要性。
- ・安全なまちであることは必要、ホームドア

の設置は必要だと思う。

- ・つながりが足りていない。すでに人間関係ができているグループへの参加は難しい時もあるので、初対面の集まりの場が増えると良い。
- ・フラットな関係づくりができるもの(場)があればよい。
- ・障害者への支援も必要だと思う。

B グループ

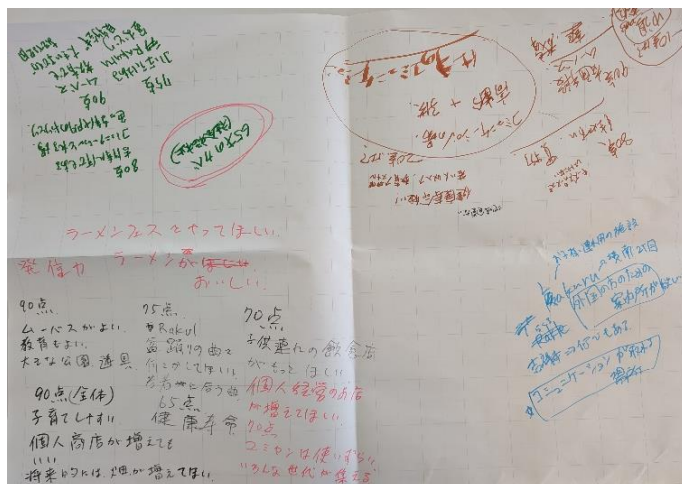


- ・80 点、70 点、70 点、70 点、69 点
- ・吉祥寺のまちは道が狭い
- ・サーティワンアイスクリームが欲しい、スタバがあると良い。
- ・アクセスが良い、利便性が高いまちだと思う。
- ・いきいきサロンのような集まりがもっとあると良い、加えてそこに若い人も。
- ・高齢者も多くなってきて、孤立も進むかも。またデジタルの講習なども必要かもしれない。

- ・65 歳という年齢の区切りでの壁を感じる。

- ・若い世代がまちづくりに興味を持つにはどうしたら良いだろうか。
- ・メリットがないとなかなか色々な世代が参加する場というのは難しいだろう。
- ・お祭りが好き、参加しやすい、誰でも参加して良いお祭りがあれば、教えてほしい。
- ・シャッターが下りているお店の有効活用として、キッズスペースや子育て支援に使用してはどうか。
- ・発信をしていくことが必要。つながりの可視化。
- ・65 歳の壁を壊したい、そのための世代間のつながりづくりを。

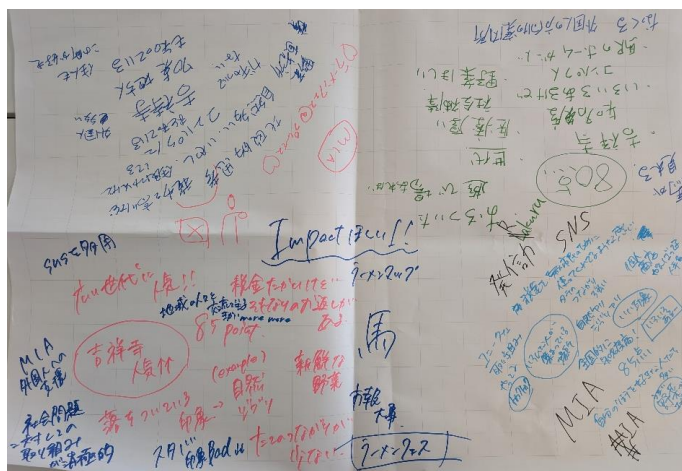
C グループ



- ・点数：90 点、80 点、75 点
- ・自然が多い、不満がない。
- ・将来は畑や自然が残されるとより良い。
- ・もっとコミュニケーションが取れる場が欲しい。
- ・色々なボランティアに参加して皆孤立していると感じた
- ・就職や勉強の相談等若者を増やす活動が必要、今回のようなイベントがあり面白い、発展途上。

- ・子育てしやすい、塾も多い、ムーバスが通っていて交通の便が良い、
- ・健康寿命がこの辺で一番低い、若い人が収入を増やせるように自分で勉強できる機会を与えてほしい
- ・盆踊りは若い方も参加されるのでテンポの良い曲に変えた方が盛り上がりそう。
- ・いろんな世代が交流できる場が欲しい、道は広いが小さい子供を連れて行ける飲食店が少ない、飲食店がチェーン店ばかりなので個人店のような店主と仲良くなれる馴染みのお店があると嬉しい。

D グループ

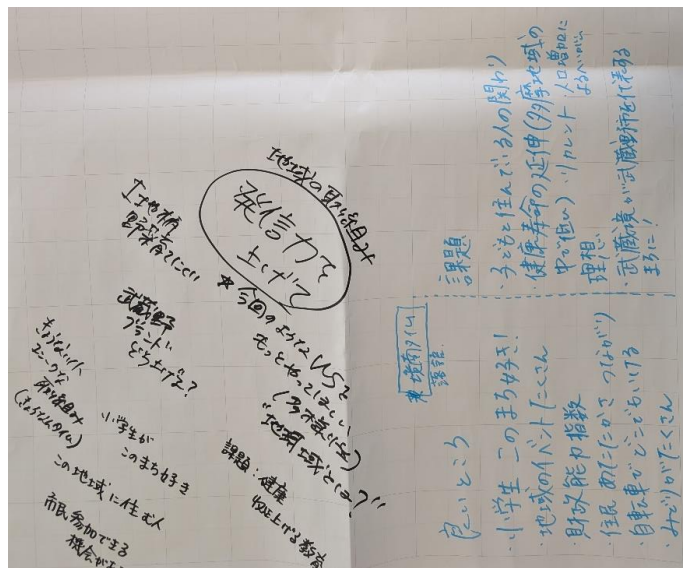


- ・点数: 70 点、80 点、85 点
- ・知名度はあるけどコンパクトなまち
- ・落ち着いた遊園地があると良い。
- ・年1, 2 回もらえるお買物券が魅力的、野菜が美味しいので畑で直売野菜や SNS で流したら人気が出そう
- ・税収は高いけど市のサービスが充実している
- ・社会保障面をもっと充実してほしい
- ・自分たちの街に誇りを持っている人が多い

ことはいいこと

- ・野菜が美味しいので発信すべき
- ・それぞれの世代の縦のつながりが少ない
- ・外国人向けの案内所があると良い、市報は大事だと感じる、
- ・若者向けにラーメンフェスを開催してほしい(多世代交流のきっかけに)
- ・せっかくキラキラ輝くイルミネーションがあるのだからクリスマスマーケットを開催してほしい、
- ・HP より SNS でつないだ方が良いのでは
- ・世代間のつながりや 65 歳以上のイベントが多いのでそこが壁、高齢者の居場所が課題

E グループ



- ・小学生に街の印象を聞くとポジティブな意見が多かった
- ・街で行われているイベントが多い
- ・吉祥寺ばかり注目されやすい
- ・若者の収入を上げる教育をするべき
- ・人口が多いにも関わらず、高齢の地主が広い土地で一人住まいしている人が多いイメージ
- ・子どもの遊び場が少ない
- ・広い土地を使って子どもの居場所をうまく作れないか…
- ・若者が市政に関心がないのは、参画するうまみがないということ

- ・学校の授業や課題とうまくつなげて、うまみを作ることが必要なのでは
- ・こういった場(まちプロ)にもっと色々な職種の人が集まるべき。「地域」のことを話すには特に学校の先生が必要不可欠。
- ・色々なイベントに参加していると、よく「地域の人」として見られるが、住んでいる人全員が「地域の人」であり、その自覚を持っている人が少ないのでは
- ・今の状態に満足している人が多いので、もっと課題を発見していくべき
- ・境南小では子どもたちが商品の企画をする授業がある。
 - 実際に企画した商品を販売してみると、子どもだけでなく、その家族や親戚、子どもの友達の家族が買ってくれて、店の収益につながるだけでなく、店のPRに大きく貢献
 - ⇒こういった取り組みについて知らないメンバーがたくさんいたため、様々な取り組みについてもっと発信していくべき。発信力の強化が必要。
- ・武蔵野の野菜を使う動きがある→加工品には武蔵野の野菜を使う意味があまりない

7 アンケート結果

(1)各地区の回答数(率)

- ①吉祥寺地区:21人(23人中、回答率 91.3%)
- ②中央地区:20人(28人中、回答率 71.4%)
- ③武蔵境地区:16人(21人中、回答率 78.2%)

(2)各設問への回答

①ワークショップを知ったきっかけを教えてください

選択肢	吉祥寺	中央	武蔵境	回答数	回答率
市報	6	16	10	32	56.1%
市HP	2	1	0	3	5.3%
市SNS	0	1	0	1	1.8%
商店会	7	1	0	8	14.0%
その他	6	1	6	13	22.8%
合計	21	20	16	57	100%

②ワークショップはいかがでしたか？【選択式】《非常に良かった～普通～良くなかった》

選択肢	吉祥寺	中央	武蔵境	回答数	回答率
非常に良かった	11	10	10	31	54.4%
良かった	7	9	6	22	38.5%
普通	3	0	0	3	5.3%
あまり良くなかった	0	1	0	1	1.8%
良くなかった	0	0	0	0	0%
合計	21	20	16	57	100%

③次回も参加したいと思いますか？【選択式】《参加したい、参加したくない》

選択肢	吉祥寺	中央	武蔵境	回答数	回答率
参加したい	18	17	16	51	89.4%
参加したくない	2	3	0	5	8.8%
未回答	1	0	0	1	1.8%
合計	21	20	16	57	100%

(3)ワークショップの評価の理由や、今後取り上げてほしいテーマ【自由記述・一部抜粋・原則原文掲載】

【評価の理由に関するコメント】

- ・普段交流のない職業の方と知り合うことができた
- ・商店街の方・フリーランスの方・住民の方とお話しできてとても楽しかったです！
- ・いろいろな意見を市役所の方がもう少しヒアリングをするのかと思ったら、ただ意見を出し合って終わりだった。
- ・様々な年代の様々な職業のご近所さんとお話しできて楽しかった。
- ・事業者様、商工会や商店街の皆様との交流及び、武蔵野市の未来について市民や事業者の方たちが真

剣に意見交換をする場に参加でき、非常に貴重な体験をすることが出来ました。

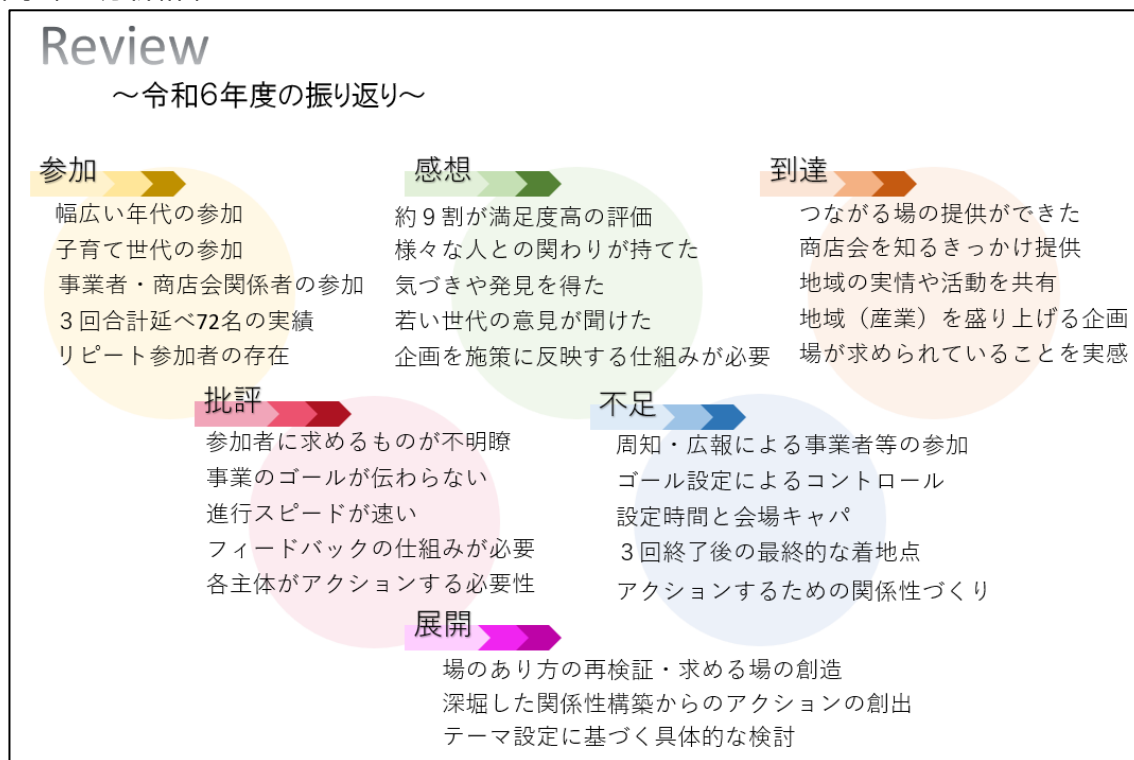
- ・色々なバックグラウンドを持つ方に会えたのと、皆さんが熱いというか温かいというか吉祥寺愛を持っているなど感じたのと、行政らしくない新しい試みがよかったなと思います。
- ・もう少しゆっくり話せる時間があるとよかった
- ・テンポが速くて、初対面の方々とコミュニケーションも取れないまま、ディスカッションをするのはなかなかハードでした。
- ・色々な問題があることが見えてきて、みんなで解決していこうという意識がつながって良かったです。
- ・お店を利用する意味は解ったのですが、各テーブル間に余裕なく近すぎ騒がしい雰囲気、聞こえが悪い者にとって落ち着いて話せない。
- ・周りの声が賑やかでグループ内でのお互いの対話が聴こえづらかったこと、一部の人たちが沢山話していたこと、他のグループの人とも交流がしたかったこと、などが課題だと思いました。
- ・違う地区に住む、違う立場や世代の方々の話を伺いそれぞれの方の意見、疑問点などを伺う事ができました。まだこちらも住んでいる地域の話をした情報の交換などもできました。若い世代の地域活動についての課題も少しクリアになりました。
- ・同じエリアに住む方々とのつながりができた。参加された方々は特に街に対する想いや熱量が大きい傾向があるのではないかと思います。こういった人たちが集まれば、新しいことができるのではないかと可能性を感じられたから。
- ・初めて会う方々と、様々な立場・視点で意見を伺えて、とても刺激を受けました。新たな気づきもあり視野が広がりました。連絡先を交換して、今後交流予定の方々を得ましたことは何より嬉しいです。

【取り上げて欲しいテーマ】

- ・商店会とのセッション
- ・NG なことを、より良いかたちで良きことにする方法とか、地域でお金を回すためにどうすべきか？
- ・自分たちで実際に政策を考え、市長の前で発表をするワークショップがあれば面白そうだと思います。
- ・一年後にアフターフォローの開催を検討してみても(市はワークショップで出た意見をどのように扱ったか。また参加者はどのように活動したか)。
- ・商店会においても同じイベントを企画したいと思います。商店会独自での開催は現実厳しいので、市が援助していただければ助かります(特にファシリテータの派遣)。
- ・吉祥寺南口再開発、三鷹駅北口の今後、今回も出ていた武蔵野の緑&都市農業
- ・市外で働く世代がいかにまちに居場所をつくるか
- ・海外の人から愛される魅力的な街にして、外貨を稼ぐには
- ・年代によってあえて分けて考えてみるのも楽しそうです。
- ・まだまだ、武蔵境という地域のことを話してみたいです。今日だけでも、そんなことやってるの？知らなかった！という気づきがけっこうありました。
- ・若者が元気になる企画
- ・まちづくりにおける商店街の関わりについて
- ・もっと若者が集ってほしいので、どうすればいいか？
- ・テーマは同じでよく、単発開催ではなく、さらに実践的な取り組みのアイデア出しや提案、実行までできるような連続性のある取り組みだと面白いし、モチベーションも上がると思う。

8 事業分析と次年度への展開案

(1)事業の分析結果



(2)次年度への展開案

①目的

- ・「つながりの場」で構築された参加者同士の関係性に基づくアクションを促す
- ・ワークショップの主目的は、参加者同士のつながりや交流
- ・アクションを生み出すためのプラットフォーム
- ・最終的には、まちとわたしとあなたプロジェクトで関係構築されたグループが自発的に集まる

②内容

- ・各回のテーマ(今年度よりも具体的なもの)を設けて実施
- ・観光や農業、商店会などの産業分野のほか、都市基盤分野のテーマを取り入れるか検討(他部署連携)
- ・継続的(かつ自主的)な「つながりの場」として、市に求められるもの、理想的な場とは

③形式

- ・ワークショップ形式の事業スタイルは継続
- ・ワークショップの運営に適した時間枠(長さ・時間帯)や場所を改めて選定(公共施設も含む)

④参加者

- ・事業者、商店会関係者の参加者増加につなげるための周知を強化
- ・参加手法(継続参加・単発参加)のあり方や、その手法の混合も検討

⑤アクションに対する市のアプローチ

- ・参加者意見を支援する方策を検討する(産業振興課以外の部署の展開も含む)

⑥中期的な展望

- ・令和7年度のプロジェクト内で出た意見については、その実現に向けて予算要求も視野に進める
- ・実現する意見については、参加者からのプレゼンや参加者同士の評価などの手法も検討

9 振り返りの会

今年度の事業参加者を対象として、以下のとおり振り返りの会を実施しました。

(1)日時

3月 25 日(火)午後6時 30 分～8時 30 分

(2)場所

吉祥寺 SkiiMa(スキーマ)／吉祥寺 PARCO8階

(3)内容

- ・まちとわたしとあなたプロジェクトに参加した感想の共有
- ・参加して、アクション(実践)してみたこと、変化などの共有
- ・次年度以降の本プロジェクトの方向性の共有

(4)参加人数

21名

(5)振り返りの会で把握できた参加者の声【項目別mの意見概要】

【プロジェクトに参加した感想】

- ・1回だけでは、お互いの連絡先を交換する勇気が出なかった。連続のものがあれば、関係性ができるかなと思う。
- ・連絡先を交換することはでき、連絡したが、リアクションがなかった。自分でも工夫が必要だった。
- ・参加者の色々なレイヤーがあり、それが混ざるということが面白い。
- ・自分はまちにとって新参者だと思っているが、1回だけではなかなか話ができない方もいたため、継続的に、頻度も増やして実施いただけると良い。
- ・武蔵境の会に参加したが、自分は顔が広いと思っていたが、知らない人ばかりだったことが新鮮だった。
- ・つながることが目的だったと思うが、もう少しゴールのようなものがあると良かった。
- ・3回とも参加したが、とても良かった。素敵なお店で、毎回武蔵野市の人が集まって話ができただけでも良かったと思う。
- ・参加しても商店街のことはまだよく分からなかったが、もっと知りたいとは思った。
- ・武蔵境で出会った方と1月にお会いしてプロジェクトのことや地域の情報・活動などについて色々お話しでき、そうした交流があったこともよかった。
- ・商店会の役割や将来のステップアップを考えるためのヒントを得る機会となった。

【プロジェクトのあり方に期待すること】

- ・スポーツ推進員にも参加しているが、身体を動かして繋がれる場があるとよい。パラスポーツを取り入れるなどして、障害のある方も入りやすくなるようにすると新たな視点でまちの安全を考えられる。
- ・市民の声を聴き、みんなが「やりたい」、「楽しい」ということを実行していけると市民参加の楽しさや、一体感が味わえると思う。
- ・熱量のある方が集まったことに感動したが、この小さなコミュニティから始まって、それぞれ隣にいる人や自分の熱量が大きな力になって、行政を動かしたりとかできると良い。
- ・来年度1個でも良いので、何か企画を立てて、行政がサポートするというものを作れると良い。まず1歩踏み出していけると良い。

【プロジェクトに必要な仕組み】

- ・参加者同士で LINE グループなどを作り、継続的に交流できる仕組みがあればよかった。
- ・LINEのように参加者同士で連絡がとれるというのはマストだと思う。そうした継続性のある仕組みを取り入れてみてはどうか。
- ・SNSなどでつながるツールを作って、興味のあることには参加し、興味のないことには参加しなくても良いという取り組みができると良い。

【具体的な企画・事業に関する意見】

- ・中央公園の焚き火エリアで、市民が集まって楽しく過ごせる場(焚火の会)を作りたい。
- ・高齢者が地域に貢献できる仕組みを作ること、高齢者の生きがいにもつながるのではないかな。
- ・ハローワークでもなく、シルバー人材センターでもなく、地元で何か仕事をしたいという人は多いと思うので、産業振興課も含めて一緒に何かできると良い。
- ・定年退職を控えた高齢者が、地域活動に参加したいという意向を持っていると思う。
- ・焚き火の会以外にも、様々な市民活動の場を設け、参加者を随時募集していくことで、市民参加の輪が広がり、市民参加型のまちとして認知されていくことにつながるのではないかな。

【振り返りの会について】

- ・今日の振り返りの会は、思っていたよりも参加人数が少なかった。
- ・プロジェクト3回は無料だったが、振り返りの会は有料で、無料がよかった。
- ・会費制とすることで、より熱量の高い方が集まったことがよかった。

【その他】

- ・産業振興という分野についてあまり詳しくなく、市民活動との違いやどういふことをやるのか、もう少し知りたいと思った。
- ・数字などでは結果が出しづらいプロジェクトだと思うが、来年、再来年もつながりを作れるイベントを継続してほしい。
- ・商店街の活動や課題について、商店街関係者以外の人にも分かりやすく伝えられるようにしてほしい。

10 おわりに

令和7年度は、第三期武蔵野市産業振興計画の計画期間の2カ年目となります。

計画に基づき、令和6年度に新規事業として立ち上げた「まちとわたしとあなたプロジェクト」については、本計画期間の終盤に総合的な評価を実施したうえで、改めて継続等について判断することになりますが、まずは、初年度の成果や改善点を改めて見つめ直すとともに、振り返りの会でいただいた様々な貴重なご意見を参考に、令和7年度も取り組みを進めていきます。

そのうえでは、特に振り返りの会でいただいたご意見でも投げかけされている、①どのような「つながりの場」が必要か、②「つながりの場」を用いてどのように企画立案を行うか、③行政としてどのような実施支援を行うかについて、引き続き、プロジェクトを通じて市民の皆さんとともに考え、産業振興の側面から「魅力あふれるまちづくり」に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりますが、初年度の参加如何によらず、多くの皆様に本報告書をご覧いただき、今後実施するプロジェクトへの参加のきっかけとなりました幸いです。そして、改めて各地区のプロジェクトにご参加いただいた皆様、振り返りの会にご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

